

## 第8回まちづくり検討委員会議事録

と き：平成22年2月8日（月）13：30～13：50

と ころ：市役所2階第3会議室

○ 会 長

いよいよこの委員会も最終回を迎えた。でも終わりではなく、始まりだと考えている。  
前回確認した提言の修正点を事務局から報告していただき、その後資料2を確認していただく。

### 【事務局】

資料1及び資料2 説明

○ 会 長

気付いた点があれば、どうぞ。

○ 委 員

12ページ下から3行目の「地域自治組織の設立準備委員会」の「地域」いうのは、自治会ではなくて今の公民館を指すのか。

○ 会 長

公民館を含めた「新たな地域自治組織」のこと。「新たな」と入れたほうがわかりやすいかも。

○ 委 員

自治会でこのような委員会を立ちあげながら、上までもっていくのかと思った。

○ 会 長

そうではなくて、新たに組織しようとする小学校区単位の準備委員会。

○ 委 員

これが一番キャスティングボードを握る。

○ 会 長

そのとおり。これの汲み上げ方が非常に大事になると思う。

○ 会 長

ほかにないか？

○ 委 員

これでよろしい。

○ 会 長

では、提言の最終案はこの修正点を踏まえたところでこの委員会で確定させていただく。  
これで議事は終了した。ありがとうございました。

（終了 13：50）

《提言》

と き：平成22年2月8日（月）14：00～15：00

ところ：市役所2階第1会議室

○ 課長（司会）

定刻になりましたので、鳥栖市まちづくり検討委員会による「地域づくりのあり方に関する提言」を行います。

（まちづくり検討委員会委員紹介）

（鳥栖市出席者紹介）

それでは提言にあたり加留部会長から一言ご挨拶をお願いします。

○ 会 長

本日市の皆様に提言をお渡しするに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

誰が言うまでもなく、地域の現状は大変厳しい、とこの一言では言い尽くせないほど大変な状況が続いていき、ますます深刻化していこうと私たちは捉えている。

人口は、鳥栖市はまだ保っているところもあるが、全国的にマイナス局面に入っている。高齢化は確実に進んでいく。さらに無関心の人たちが増えてきている。このトリプルパンチが分野を問わず、地域を問わず、いろんところで深刻化している。加えて住民の価値観は多様化し、ニーズも多様化している。公平性を担保していく行政だけではとても担いきれない現状が、目の前どころか、身に降りかかっている状況が来ている。

これから提言を出し、委員の皆様一言ずつお話をいただこうと考えているが、今から出てくる内容というのは、市民協働推進課がやっている仕事ではない。行政の方々にとってみては、公務員であり続けるからには、これはオプションではない。今からする話は職員の方全てに標準装備だとお考えいただきたい。どの部に就こうがどの課にいらっしゃろうが、もう逃げることはできない。我々も逃げるできないという状況を議論のなかで確認しあった。特に10年後。10年後の地域のありようを、状況を十分想像していただき、その状況をしっかりと考えていただいて、一緒に解決していこうというのがこの提言だ。

今回8回の議論の場をいただいて、2回は提言の内容の確認であったが、実質的な議論をした残り6回のうち4回を「なぜこのような組織を作らなければならないのか」という目的のところ、つまり「あり方」に議論を尽くした。それらを我々なりに十分確認しあって、やり方をどうするのか考えたプロセスを踏んだつもりだ。

あり方の議論をする中で、さまざまなご意見もあった。正直なところ感情も出た。しかし我々はそれを何とか乗り越えつつ、この鳥栖市の10年後を何とか乗り切りたいという気持ちで今回の提言に盛り込んだつもりだ。

だから是非お願いしたいのは、我々だけが「担う」というものではなく、また行政だけが「担う」ということでもなく、素直に、一緒にやってみようということ。

本日は年度末のお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございました。

○ 課長（司会）

ありがとうございました。それでは加留部会長から市長へ提言書の提出をお願いします。

## 【提言書の提出】

### ○ 会 長

いろんな想いを込めた提言だ。どうぞお受取りいただきたい。

### ○ 課長（司会）

それでは、鳥栖市長橋本康志が一言ご挨拶申し上げます。

### ○ 市 長

本日はまちづくり検討委員会の委員の皆様には、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。また加留部会長、小石副会長の下、大変な回数の議論をしていただき、改めて感謝申し上げます。

いま加留部会長からご指摘くださいましたように地域の問題は、私たちのすぐ横にある問題があります。先日の嘱託員会でもお話したのですが、あと20年後には全国平均で若い方も含めて約4割が独居世帯になるとのことで、ゴミ出しの問題から日々の生活に関わる身近なものまで、さまざまな問題が出てくるのが考えられます。先日もゴミ出しができず、ベランダに積み上げられていたゴミから火が出るといったことがありました。本当にちょっとした病気や怪我から2年も3年もゴミ出しもできずに、にっちもさっちも行かなくなったようなことも、いろんなところで出てきています。

それこそ地域だけでもダメだし、行政だけでもダメだと思います。

今日、このように提言をいただきましたので、市としてもどういうやり方でこれからの地域を作っていけばいいのか検討してまとめていきたいと考えています。

鳥栖市では平成19年2月に市民の皆様と一緒に、地域をどう運営していくかという市民協働指針を出していますが、今日の提言を新たな視点で、現場でご活躍いただいている皆様の生の意見を大切にしながら検討を加えていきたいと考えています。

また、それぞれのお立場で大所高所からご指導ご鞭撻を賜ればありがたいと思います。今後ともよろしく願います。ありがとうございました。

### ○ 課長（司会）

それではまちづくり検討委員会の委員の皆様から提言書の提出に当たり、今までの感想や想いを一言ずついただきたいと思います。

### ○ 委 員

軽い気持ちで委員を引き受けたが、第1回目の資料を見て自分が考えていたまちづくりと全く違っていたので、こんなところに座っていていいのかというのが私の最初の思いだった。第2回までは全く理解できなくて、9月に宗像市を視察した頃からまちづくりが頭で理解できるようになった。

市民協働推進課だけが一生懸命やってもまともならないだろう。市長はじめ幹部の方、職員まで含めた全員の協力が必要だ。

### ○ 委 員

地区公民館代表として委員に入ったが、縦糸と横糸の中心にあるのが公民館だと思う。それに

いかに肉付けしていくのがこれからのコミュニティセンターの課題だろうと思う。

それぞれの地区でそれぞれの公民館活動が展開され、それぞれの地域性が発揮されているが、コミュニティセンターに移行することによって、まず地域課題をコミュニティセンターで受け止めるというイメージを持ったが、地域の皆さんの声をどう吸い上げてどう行政に繋げていくか。

国から地方へという考えは、自分たちのことは自分たちでやりましょうという自助努力の問題だと思う。地域が活性化していくためには各部会を作って取組んでいくことが必要だ。

また問題は地域だけでなく行政の内部の問題、縦割りではなく組織をどう展開していくのか。行政の窓口は教育委員会ではなく市長部局にすべきで、今後市の内部調整をどう図っていくのか、地域のコミュニティセンターと行政は車の両輪なので、平行していかないとうまくいかないと思っている。

#### ○ 委員

私はハコモノが欲しいと最初に申し上げた。若葉コミュニティセンターが一番新しい施設だが、現状でも部屋数が足りない。いろんな活動が活発で、部屋の奪い合いになっており、市民協働推進課長にハコモノが欲しいと訴えたが、ハコモノは今のままです、と一蹴された。

一番恵まれている若葉地区がそうだったから、ハコモノは厳しい状況にあるのだろうと思うが、10ページにあるように組織への支援策を充実させていただきたい。モノとヒトが欲しい。

モノは地域ではどうにもならないので行政にお願いしないといけない。ヒトは地域で探せば立派な方がいらっしやると思う。組織への支援策を充実させて欲しい。

#### ○ 委員

婦人会から参加したが、私もここに来るべきではなかったと思った。でも数少ない婦人会のことを市のほうはどのように考えているのだろうと思い参加した。

婦人会はだんだんと忘れられていっている。先日も地区公民館の調理室が使えなかった。提言とは関係ない話になったが、これだけは伝えて欲しいとメンバーから言われたのでお話しした。

#### ○ 委員

PTAからこの委員会に入ったが、最初に「なぜPTAから？」という思いがした。PTAの組織自体が人員不足で、「しなくていいならしたくない」というような逃げの態勢に保護者達もなっており、PTA自体が大変なのにまちづくりまで手が回らない、という思いが最初にあった。

回を重ねるごと、皆様とお話しするたびにPTAの活動イコール鳥栖市の現状なのだということが分かってきて、PTAのこと、婦人会のこと、老人会のこと、公民館関係のことなどお互いのことが分かっていない、知らないんだな、その中に踏み込んでいくこともしていないんだな、ということが実感として分かってきた。

10年後は私たちには想像もつかないことだが、市民協働やコミュニティ化について、私たちが何回も会議を重ねないと内容を理解できなかつたように、市民の皆さんに浸透させること自体は非常に難しいことだと実感した。

行政だけをお願いするだけでなく、行政と私たち一つひとつの団体がみんな同じ方向を向いて伝えていくことなのだという事を感じた。

難しい部分は、黙ったままの会議もあったが、会長からの「委員会に参加したら必ず発言してもらおう」という言葉で、その時その時の想いとか、PTAの立場での話をさせていただいた。こ

の委員会の委員として参加させていただき、他の委員の皆様とお会いでき、行政の方ともお話をさせていただいたことを感謝している。

#### ○ 委 員

消防団を代表して参加させていただいた。この委員会に入る前に、公民館活動も消防団は参加してないし、「なぜ消防団が入らないといけないのか」と感じたが、入ってくれということだったので、気楽に参加した。

最初に「協働」という言葉の壁にぶつかった。消防団には「協働」という言葉はない。協働の意味合いから会長に教えを乞うた。

地域自治組織ができるとき、消防団がどういう協力ができるのかと、全体的な組織より自分の出身母体のことを考えた。消防団は歴史をたどれば江戸時代から脈々と活動しているので、その底力は相当なものがあるだろう。鳥栖市に370名の消防団員がおり、それぞれの地区でそれなりの活動をやっている。

新しい組織に消防団も参加していくが、どのような協力や活動ができるか、消防団として勉強していくが、新しい組織の中でも消防団の活用も検討して欲しい。

一言言わせてもらえれば、消防団と別の組織である自主防災組織が新しい組織に入るのが本来の姿だろうと思う。鳥栖市は自主防災組織が4割に満たない。自主防災組織ができるとき、消防団は関係しないでくれと言われた経緯があり、消防団は自主防災組織設立のときには一切協力はしていない。だが、地域自治組織ができ、組織内の協力体制の中で、自主防災組織を消防団が率先して作っていくという協力もできると思う。地域自治組織のなかでの消防団の活用を考えていただければと思う。消防団も全面的に協力していこうと思う。

最後に1つだけお願いしたい。先進地の視察に行ったが、その中で消防団の仕事にゴミ収集があった。ぜひともこれだけは止めていただきたい。協力は十分するので、消防団がどういう組織なのか頭に入れて、消防団を活用して欲しい。

#### ○ 委 員

老人クラブ連合会からこの委員会に参加させていただいた。資料としていただいた鳥栖市の人口動態から10年後の鳥栖市を見ると、65歳以上と14歳以下の人口比率は2：1となっている。このままでいくと大変だ、というのが委員の皆さん共通の認識だ。

今後の新しい地域自治組織の中では、この問題を大きく取り上げていただきたいと思っている。自分が老人会の中にいるから、このままではいけない、何かしないといけないと、最近ことあるごとに言うようにした。「10年後の老人と子どもの比率は2：1ですよ、大変ですよ、このままでいくと爺さん婆さんばかりの町になってしまう、元気のない町になってしまう、何かしないとイケませんよ」と言うのだが、聞いている皆さんは「のほほん」としている。誰かがしてくれると思っている。だからそういう意識改革を図らないといけないと思っている。

大体老人会自体が元気のない団体になった。70歳や75歳以上から加入する老人会が多い。まずやるべき事は老人会のメンバーを若返らせること。少なくとも65歳以上は老人会に加入するというようなことを考えていかなければならない。60代には元気な人も多く、リーダーシップを取ってみんなを引っ張っていくことができる。

また老人老人というのが、社会において経験を積み、いろんな知識を蓄え、いろんな技能を持っ

ている。それをそのまま眠らせていいのかという問題がある。そういうものを活性化させるための活動を今後は考えていきたいと思っている。少なくとも私の地区にはそういう意識付けを強くしていきたい。

ただ、私だけの力ではどうにもならない。皆さんの協力をいただかないといけない。今後の新しい地域自治組織のなかでは、それらを加味して活動をして欲しい。

#### ○ 委 員

最初は自分でやっていけるのかなと悩みながら参加させていただいた。皆さんのお話をお聞きしながら、勉強させていただいた。

旭地区の地域自治組織を立ち上げるためにもまず旭地区の道をきれいにしてもらいたい。先日の文化祭でも、お弁当を運ぶのに狭い道を行かなければならないし、早く組織を立ち上げて施設を良くしないといけないと思う。

#### ○ 委 員

以前総合計画のみらい会議に参加した経緯もあり、まちづくりに興味があるようだから、と言われ、民生委員の代表として参加した。

最初の何回かは本当にこのまちづくりが必要なのかという思いで参加していたが、自分なりに本を読んだり、自学して、やはりこの時期にまちづくり検討委員会を作られたのは、今が最初で最後のチャンスじゃなかったのかなとしみじみ思った。なぜなら高齢化していき、今後の鳥栖市をいかに豊かで安心安全な街につくっていくのは、今考えなければいけないからだ。

私自身が活動している中で、若い独居男性が周りに多いが、彼らは日中ほとんど家にいないから、ご近所との繋がりがほとんどない。横の繋がりが希薄になっている。

この提言は素晴らしいものだと思っている。目的なり、現状なり既に書いてあるので、是非読んでいただいて、新しいまちづくりをしていく私たちに行政が力を貸していただければありがたい。

ひとつお願いがあるが、市の職員の一人ひとりも新しい組織づくりを理解いただいて、強力なバックアップをしていただきたい。

#### ○ 委 員

私は公募委員だが、興味とやる気を持って参加した。常々鳥栖市のことを考えており、会長や諸先輩の話聞いていく中で、皆さんの「鳥栖市のために」という思いを感じた。自分が住んでいる町や地区のことしか考えていなかったことを反省させられた。同時に、自分ができること、つまり地区のことだけでもいいのでは、とも思った。

私が「自分の住む地区だけでいいのでは」と思ったのは、委員の皆さんが自分の地区のことを熱く大切に想っているからで、自分の地域だけが良ければいいという発想ではなく、我慢すべきは我慢して、自分は自分の町のことを大切に想っている人たちと連携を図りながら、みんなで良くしていこうと思った。こんな想いを伝えられる場に参加できたことを感謝している。

最後に、熱い想いややる気のある人は一言声をかけてくれれば集まってくれると思う。他人事と思っている方への啓発とか、私と同様に鳥栖市を想う若い世代を組み込んだり、意見を反映させられるシステムを構築してくれればと思う。

#### ○ 委 員

最後になったが、毎回の会議で順に意見を出すというのもこの委員会のやり方だ。我々メンバーも一糸乱れぬ姿勢でやってきたという自負もある。

それとこの会議で初めてだったことは、会長の、委員さんの話を聞かせて欲しい、忌憚なく話して欲しいという姿勢と、行政が会議の後で行政の考えに沿うようにまとめるということがなかったこと。その結果我々の目線で提言をつくりあげた。

なぜこのような地域自治組織を立ち上げるための提言を行ったのか。10年先を見据えたときどうなるのかを第一の問題として会長からお話を聞いた。その解決手段である「協働」というものを我々は理解しているのか。時間をかけて会長からわかり易く説明をしていただいたのが印象的だ。

各委員からは、自分の団体は関係ない、など自由闊達な意見を出してもらった。それをまとめていく会長は大変だ、2回目からはどうなるだろうと不安になった。でもそれらを一つひとつ乗り越えて、重ね合わせたのがこの提言だ。

我々も今までのように全て市に「おんぶに抱っこ」じゃダメだ。そこで自助、共助、公助という言葉が会議の中で我々に根付いた。

ところが、いざ結論を出す段になって寒気がしてきたのは、地区で立ち上げる時、誰がリーダーシップを取ってくれるのだろうかということ。我々が作ったものだからやはり我々がやらないといけない。

今後我々はやる。ただ要望したいのは、皆さんの力、ヒト・モノ・カネ。

平成17年に宗像を真似て基里地区の自治会で立ち上げた。ただ残念ながら実際の活動までは至っていない。どうしても「先立つもの」が必要だ。行政のほうも人材・物・金については是非協力して欲しい。それと拠点となる公民館が地域自治組織の活動に耐えうる施設であるように改善していただきたい。

そういうことをしながら、1年2年かけ、立派なコミュニティセンターを作っていきたい。

## ○ 会 長

私が唯一市外のメンバー。市外の私から見た鳥栖市の印象は、人口はそこそこいる。大きな企業もあるので豊か。高齢化も他に比べればまだ低い。だからどうにかなるだろうと、市民も行政も思っている。とても「ゆるい」街だ。

しかし先はどうなるだろうかとデータを出してもらった。心配どおりの見事な数字が出てきた。それをまず皆さんにつまびらかにした。情報公開は非常に重要だ。情報は開けば開くほど味方ができる。閉じれば閉じるほど敵ができる。

第1回目の会議の会長就任の際に「皆様それぞれにお立場、地域、いろいろあるでしょう。しかしこの委員会に限ってはそれらを全て乗り越えて、鳥栖市全体のことを考えていただきたい。これを唯一のルールとする。」とあいさつした。

そして私が問いかけたのが、先ほどから何人かの委員さんが口に出しているが、「10年後はどうなるのでしょうか?」。人によっては顔が青ざめ、人によっては背中が凍りつくといろいろな表現をしていただいた。そこから議論を進めた。

私たちが今から立ち上げていこうとする中身は、行政からの叩き台はなし、ということにした。行政が出してくるものはあくまで仮説に過ぎないのであり、我々の議論の中で変わっていく可能

性がある。8月11日からスタートした、わずか半年ばかりの議論ではあるが、これだけの中でどれだけ渾身の力を込められるのかを進める側としては意識した。

提言の中身についてはポイントだけを申し上げると、大きな柱はひとつ。行政区を7つの小学校区に再編成しようとする。なぜこれをするのかという目的の議論に最大の時間を費やした。

目的は4つ。まず本音として、一時的ではあるが行政と行政区のスリム化。これは率直につまびらかにしておこう。後で疑心暗鬼になって「本当の目的はこれだろう」と言われることがないように最初に出しておいた。

次にこれが私どもにとっての肝。10年後の高齢化を乗り切る。どうせ時間がかかるのであれば、今のうちから着手しておくほうがよろしい。10年後ここの町を助けてくれといったときに、ほかの町も10年高齢化しているので誰も助けてくれない。だから鳥栖市のことは鳥栖市でやるしかない。足を引っ張り合っている段ではない。今のうちお互いが結びついてセーフティネットを作っておいた状態じゃないと辛いのではないか。

3つ目は繋がりを強化して多様なニーズに対してどうしても抜けモレが出る。公平性を担保する行政ではモレモレ状態。どうやって繋がりの中でカバーできるかを考える。

この中身については、今年の1月1日号の市報で巻頭から8ページぶち抜きでコミュニティの総力特集を組んでいただいた。なぜ市民協働が必要なのか私たちはこんな例えをしている。

地域の課題は脂肪であり、今ブクブク太ってきてメタボ状態だ。行政は骨である。しかし行財政改革で減るという意味でスリム化し、かつ中を見ると各部各課の横の繋がりが骨粗しょう症状態だ。筋肉である地縁組織やNPOなどは筋肉疲労を起こして収縮してきている。細胞分裂して数は増えているが、それから先の強化はされていない。企業は入るか入らないかでまだ迷っている。さあどうするかとなれば、結び付けるしかない。特に骨と筋肉を結びつけて動かしていかないと脂肪は燃焼されない。つまり地域課題は解決していかない。

以上の3つまでは目的の仮説の中で立てていた。議論していく中で4つ目の目的に加わったのが、お互いの知らないという状態は打破するべきだ、ということ。いま委員の皆さんからいろいろな想いやお願い、要望が出てきた。これらは陳情ではない。振り絞る声だと受け止めていただきたい。お互いが知らなかったからできなかったことがいっぱいあった。お互いを知り合ったから、できそうなことがある。

地縁団体同士、地縁団体とNPO、企業、あるいは行政などとの間にもそういうことがある。知らないという状態を打破しないと、鳥栖の街は烏合の衆となってしまう。何万人いても烏合の衆となってしまう。これは避けなければならない。

これら4つの目的のもとに、その後の各論の議論に進んでいったという背景を十分ご理解いただきたい。

各論の個別的な案件は、委員の皆さんが「こんなことが心配だ」「このことはどうなるのか」といった部分を一個一個我々で潰していき、必要な情報は事務局から提示していただき進めたもの。

今回は提言という形で提示したが、全てが実現するかは諸事情があろうかと思う。ただ私たちは、具体的にこういう案件があり、こういうことについては心配をし、こういう方向で進んではどうかということは、一つひとつ精査して具体的に議論している。繰り返し申し上げるが、何かの叩き台があって作ったものではない。私たちが論点を出し合っ、その論点を一つひとつ潰し



あった結果がここにあるということだけは、十分ご理解いただきたい。

最後に我々は組織を再編するという事で一枚岩になっている。行政も一枚岩になってもらわないと困る。そしてそのもの同士が一枚岩にならないと10年後は乗り切っていけない。そこでポイントになるのは「聴く」ということ。「聴す」と書いて「ゆるす」と読む。相手の話を聴くということは相手を許すということ。聴き合うということは許し合うということ。かつての封建時代では行政がお上として庶民の声を聴いてやる存在だった。しかしこれからは違う。我々も行政の存在を許すのと同様に、お互いに聴き合って許し合っていないと事は前に進まない。

九州のある市で平成22年度から鳥栖市と同じような動きをスタートさせる。ただし、議論がほとんど行われていない。役所の中は大変な状態になっている。市民も疑心暗鬼になっている。

私たちはおそらくそのような状態になるかもしれないと考え、平成22年度を準備期間とした。そして23年度から本格実施のスケジュールを提言している。平成22年度の1年間を大事にしよう。お互いに慣れていないことがたくさん出てくる。お互い知らないこともたくさん出てくる。お互いわからないことも出てくるだろうし、思いもかけないような課題も現れてくるかもしれない。分からないなら分からないなりに話し合いを進めること、議論を進めることは、これからの多様な世の中において解決策、具体的な行動そして実務としてはこれしかないと思っている。

まず話を聴きよう。お互いの話を聴こう。私はその第一歩になればいいなと思いながら今回の委員会をご一緒させていただいた。私は外から来た人間で、地域の事情もよく知らないままで、私の話を聴いてくれた、聴（ゆる）していただいたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

○ 課長（司会）

ありがとうございました。皆様の感想とお願いを含めたご意見をお聴きしましたので、行政といたしましても地域自治組織の設立と併せまして、検討をしていきたいと考えています。

それではこれでまちづくり検討委員会による地域づくりのあり方に関する提言を終わりにさせていただきます。

本日はありがとうございました。

(終了15:00)